



皆の心の勇む日 一番古い日やぞ

昔から人々は、災難を恐れ、暦こよみの中に良くないことがあると恐れられる日を記しるしてきました。縁談や建築などの節目しるしには、現代でも厄日やくびを忌み嫌うことがあります。教祖おやさまは、

「不足に思う日はない。皆みな、吉日やで。(中略) 皆の心の勇む日が、一番吉日やで。」と、教えられました。

(稿本天理教教祖伝逸話篇一七三「皆、吉日やで」) そもそも親神様よりお与えくださったる日日に、不足のある日は一日もありません。

「皆の勇む日」とは、親神様が陽気ぐらしをするのを見て共に楽しみたいと思召し人間

を創造されたこと。そして今なお陽気ぐらしに向かつて導いてくださっていること。さらに親神様のお心は「たすけ一条」であること。この本真実ほんしんじつに皆が目覚めて心一つに合わせた日が、おのずと「吉日」になるということではないでしょうか。

ところが人間は、我が身勝手な心遣いから、心の埃ほこりを抱え、見る目を曇らせているのです。どのような不自由や災難に巡り遭あうとも、親神様の本真実に目覚め、その親心を悟り、吉日に転化てんかさせていただきたいものです。

一れつにあしきとゆうてないけれど

一寸のほこりがついたゆへなり(第一号53)

本島大教会布教部(位)